

山行報告書

受付 No.	351	登山地・ルート	富士山～吉田口より～
目的	雪上歩行トレーニング		
メンバー	大山、坂野		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
12・20・火	晴れ	浜松＝馬返し◎～佐藤小屋～山頂鳥居～佐藤小屋～馬返し◎＝浜松 23:05 1:38 8:19 12:05 13:39

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【浜松～登山口】吉田口の一合目から登るのは自分にとっては2回目。1回目は8合目手前で引き返した。もともとは山の雑誌の記事で、どこかの山岳会が冬のトレーニングで富士吉田の駅から前夜8時くらいにスタートして富士山を「駆け抜けた」というのを読んで憧れたルートだった。しかし車で馬返しまで入れるのなら躊躇なくそこまで入ってスタートした。

【登山口～佐藤小屋】ヘッドライトを付けてスタート。最初は参道のような所を歩き、土が流れて深くえぐれた歩きにくい道を行く。雪はほとんどない。坂野氏とはペースが合わず間が開くが、ライトが光るので大体の位置は把握できた。こちらマイペースで登る。一合ごとに昔の名残りの壊れかけた建物があり不気味。林道に出てひと登りで佐藤小屋へ。人の気配はなく真っ暗。

【佐藤小屋～山頂鳥居】所どころ黒い地面の見える道を歩いて6合目へ。樹林帯を抜ける。建物の陰に2張りのテントが風を避けて張ってあった。自分も以前ここで張ったことがある。こちら構造物の間で身支度を整える。アイゼンを装着、ゴーグル・目出帽にオーバーグローブを着け、ヤッケの下にダウンを着込む。6合目からジグザグと付けられた登山道を登る。7合目までが遠かった。建物の陰でも風は当たり、ダウンを着ていても休憩は寒かった。風は強かったが、8合目まで登ってくるとさらにすごい音で吹きすさんでいる。ちょっと不安を覚えたので明るくなるまで30分ほど待つことにする。坂野氏はツェルトを被り始めた。自分は坂野氏よりは風の当たらないところに入り込んでいたのでそのままじっとしていた。明るくなれば少しは風が収まるかという期待からか、風の音が少し弱くなったように思い上へとスタートする。終始坂野氏が前を行っているが、間は開くばかり。9合目の鳥居が見えてきた辺りから特に風が強くなり、雪面は堅くアイゼンの爪は根元まで刺さらず、ピッケルも石突の先が少し入る程度で、突風性の風に吹かれてバランスを崩しそうになる。それでも耐風姿勢を取りながら足を踏ん張り、風の呼吸を計りじりじりと進む。新田次郎の小説の世界だ…。しかし場所によっては風が息をつくことなく吹き続ける所があり、そこに風と正対してしまつたら身動きが取れなくなってしまった。方向を変えようとすれば即倒されそうだし前には進めないし、仕方なく正対したまま後退する。坂野氏に向かって「ワタシ、ムリ、イッテ！」とジェスチャーを送るが、当然通じず、下りてくる様子が見られたのでまた前進する。コースを少し変えたら通過できた。そこからは数歩登っては立ち止まりを繰り返して何とか山頂神社まで至る。剣ヶ峰まで火口を半周だが、再び強風に吹かれてみたらもう自分は体力的に無理だなと思い、下山とする。坂野氏は行きたそうだったが…。

【山頂鳥居～登山口】登ったところを下りようとしたが、坂野氏が斜面の方に入って行くのを見てこちらへ続く。が、やがて雪面は蒼水の斜面となり、バックステップで下る。ピッケルのピックもちゃんと打ち込まないと弾かれるような斜面で、ここで突風に吹かれたら…と恐怖を覚えるが何とか無事通過。下りの強風にはそれほど悩まされることもなく順調に下り、佐藤小屋から馬返しまで1ピッチで下るのはきつかった。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



日の出～8合5勺付近



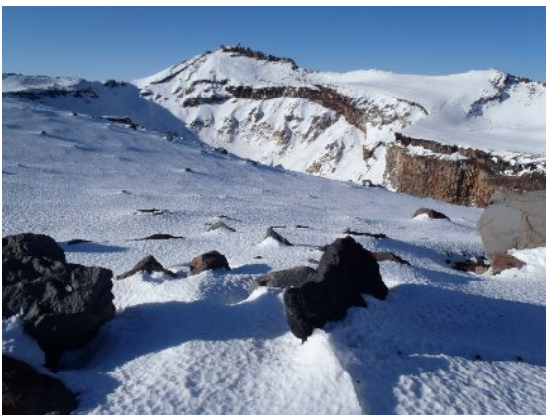
ここから左へ下りた



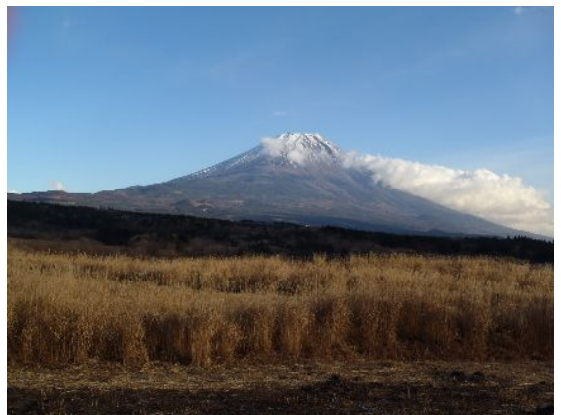
強風地帯を振り返る～右上は山中湖



テッカテカのアイスバーン…怖！



火口越しの剣ヶ峰



朝霧高原より。雪は少ない感じ。

